

風発被害者の実態と人権

<http://www.eonet.ne.jp/~kosmoso/> 管理人補佐

私たち一家はエネファームの低周波音による被害者ですが、同様に低周波音に苦しむ風力発電被害者に会う為に、妻と2人で和歌山県まで行ってきました。列車の車窓から見える風車は一見のどかで、ゆっくりと回る風車のブレードが加害源であると気付くには、ブレードの先端の速さを数値化して考える時間が必要でした。ブレードの長さを約40mとし、約2秒で1回転すると考えても、ブレード先端は100m/秒を超える速度で空気を切り裂いており、風車直近の状況の厳しさを理解できました。

被害者(Aさん)宅で低周波音の測定データをPCに取り込みながら、お話を伺いましたが、その間、妻は胸の圧迫感を覚えました。私は何か妙な音(ギアの噛み合うような音)が聞こえるとは思っていませんでした。後に来訪された被害者(Bさん)は部屋に入るなり「ここでは駄目だ」と苦しそうで、部屋を替えてお話を伺いました。それでも屋内では苦しいとのことで、ずっと両手で頭を覆っていました。Bさんは「昨夜は風車を燃やしてやろうと思った。」、Aさんも「風車を壊して捕まっても良い。何度死のうかと思ったか。」と述べられ、その苦しさが覗えました。因みに、お二人とも聡明な方で、このような方達を粗暴な行動に駆り立てる風車は、遠望するだけの者には判らない凶暴な一面を持っているようです。豊橋市では自殺者も出ました(東日新聞 07/8/31)。ガンリンに浸したタオルを首に巻き、風車に向かって焼身自殺をしたそうです。

私のように、直ぐには低周波の影響を受けない者も多く、それが被害者に対する無理解に繋がっているのでしょう。又、Aさんの住む町が低周波の測定を依頼した〇〇協会は、無風状態で風車が停止している時に調査を行い、Aさんは呆れていました。当然のことですが、被害者が被害感覚を最も強く感じる時に、その場で測定を行わなければなりません。



しかし、最大の問題は、失礼ながら、田舎特有の人間関係・社会構造にあるようです。これはある程度予想していた事でした。Aさん宅よりも更に風車に近い所に住む方は、「体調不良を感じることもあるが、風車のせいとは言えない。」と仰りながら、眠れぬ夜のために風車から離れた場所にアパートを一室借りていました。屋内で高レベル低周波音が計測された家に住む高齢の方も、不調なのは年のせいと諦めているようで、痛ましく感じました。御上に文句を言うてはいけないと信じ、自己規制が強く、その結果として闘うことに思い至らないようです。Aさんも、この3年間、我慢を重ね、遂に耐えられなくなり、勇気を振り絞って町役場に窮状を訴えまし

たが、町役場は全く耳を貸そうとせず、「そんな苦情を言うのは貴方だけだ。もう来るな。」という姿勢のようです。

町には風車の設置者から高額の固定資産税等が払われ、風車が設置された山の地権者には土地賃貸料が入っているはずです。そんな山持ちが町議会を牛耳っていないでしょうか。そして風車から離れた場所に住んでいるのではないのでしょうか。低周波音の健康被害を否定し風発を推進する人に、静岡県川勝知事が「では、あなたが風車の直ぐ近くに住んでみなさい。でないと無責任です。」と言ったそうですが、真に言い得て妙であります。原発では事故が起きれば、推進派も反対派も共に被害者になりますが、風発では事情が異なります。風車の設置により町が潤い、利益を享受する人がいる一方、少数でも確実に被害者は存在します。我慢する被害者を生贄にし、それで健全な共同体といえるのでしょうか。ダム建設では、先祖代々の土地と家を奪われますが、少なくとも代替地が用意され、補償金が住民には支払われます。しかし、見えない音の被害で家に住めなくなった人々の健康と資産は、どのように守られるのでしょうか。

風車や工場、民生機器から出る低周波音による被害は喫緊の人権問題であり、その緊急性を考えると、法整備を待つ余裕は無く、行政に頼らざるを得ません。人権という言葉をやたらに使う気はありません。しかし、当然の事として、日本の政府に、日本人の人権を護る事を最優先するように要求します。

風発被害は全国的な広がりを見せ、被害者同士の連帯が可能です。私たちがエネファーム被害者は全国に点在し、連帯が非常に困難であります。又、それを見透かすように風発被害とそれ以外の低周波被害とを分断するような動きもあると仄聞しておりますが、私たちは暴発するより他に手がないのでしょうか。

村社会、否、日本社会の残忍な一面を垣間見た旅行でした。そして、汐見文隆先生が既に記された事を再認識するような旅行でもありました。

2012/01/22

追記:マスコミの提灯持ちも良い加減にしてほしいものです。↓

参考：日高新報 2010年3月12日より（概略）

白馬ウインドファーム 25日に竣工式

日高川、広川の町境の風力発電事業「白馬ウインドファーム」が操業。1500キロワットの風車20基を設置、総発電量3万キロワットを誇る事業。日高川町にとっても固定資産税（3000～3500万円）などのメリットのほか、エコの町としてのイメージアップや観光面などでも期待は大きい。